

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年6月2日

【評価実施概要】

事業所番号	1592200024		
法人名	株式会社 ツクイ		
事業所名	ツクイ佐渡サンフラワー		
所在地	新潟県佐渡市吉井本郷字新町144 - 1 (電話) 0259 - 61 - 1631		
評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成	20年	3月14日

【情報提供票より】(19 年 12 月 12 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 15人、非常勤 1人、常勤換算 8.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	木造2階 建ての	1 階 ~	2階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	有(円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日あたり	1,033 円	

(4) 利用者の概要 (20 年 3 月現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名
要介護3	10 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 81.6 歳	最低 65 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	本田クリニック こだま歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

のどかで豊かな自然環境の中に立地しているホームであり、デイサービスが併設されている。ゆったりと生活するには恵まれた環境であり、かつ、ホームは幹線道路沿いにあり、ドライブ等外出にも利便性がある。併設のデイサービス事業所の利用者とも交流がある。
ホーム内には利用者と職員が共同で制作した張り絵が掲示されたり、食事時には利用者の負担にならない範囲で役割分担を持ってもらうなどし、主体的な生活が送れるよう支援している。入浴も希望すれば毎日可能である。医療面においても、ホームに看護師が配置されているほか、協力病院の定期診察や必要時の住診も可能であるなど連携体制がとれており、適切な健康管理がなされている。
認知症になっても「その人らしさ」を常に考え、利用者の希望を尊重し、利用者個々の生活を大切にサービスを提供している。地域の人が立ち寄りやすいなど地域との交流も始まっており、今後さらに地域に溶け込んでいくことが期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初回の外部評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を実施するにあたっては、管理者が原案を作成し職員の意見を求め、話し合いをしながら作成した。評価の意義については管理者は理解しているが、他の職員間での共有がまだ十分ではない。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>日程調整等の問題があって2ヶ月に一回の開催には至っていない。構成メンバーは民生委員、市の担当者、地域包括支援センター、区長となっている。地域包括支援センターは現在まで参加実績はない。事業所の運営状況の報告や、検討事項についての協議をしており、意見や助言を運営に活かしてサービス向上に結び付けようとしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>契約時には苦情解決の仕組みをしっかりと説明している。管理者は日頃から利用者や家族の声を聞く姿勢をもつことが重要であると理解しており、家族等の意見を聞く場合は周囲への配慮をするなど、より気軽に意見等を表せるような工夫をしている。苦情解決の仕組みもしっかりと整えてあるが、加えて玄関先や事業所内に意見箱を設置するなどして、意見や苦情を吸い上げるより一層の工夫が期待される。このような取り組みとともに、日頃から利用者や家族の声を聞く姿勢の大切さを職員間で話し合うことが望まれる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近所の人遊びに立ち寄ってくれたり、散歩など普段の生活の中での近所の人と挨拶を交わし、交流している。また、近隣の保育園の運動会の見学などを行ない、相互交流のきっかけにしようとしている。今後、より積極的に地域住民との相互交流を図っていけるよう、ホームでの交流会等の開催や、地域の催しに出かけていく等の取り組みが期待される。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)
 取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	本社の理念をもとに、利用者が地域の一員として健康で安心して暮らしていけることを大切にホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	本社の理念をもとに、開設時に管理者を中心に職員の意見を聞きながらホームとしての理念を考えた。理念についてはスタッフ会議等の場でふり返り、確認するようにしている。		
2 - 2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	利用者や家族には、契約時に説明し理解を得ている。折に触れて利用者や家族、来訪者にも理念を知ってもらおうとする姿勢がみられる。地域に向かっての情報の発信については取り組みがまだ十分ではない。		事業所独自の広報誌を回覧したり、地域との交流を実施するなどの取り組みを始め、その積み重ねにより、地域への理念浸透を図ることを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所をオープンにする姿勢があり、近所の人々が遊びに立ち寄ってくれている。また、散歩等日常生活の中で近所の人と挨拶したり、近隣の保育園の運動会を見学することを、相互交流のきっかけにするよう努めている。		今後は、より積極的に地域住民との相互交流を図っていけるよう、ホームでの交流会等を開催したり、地域の催しに出かけていくなど、さらなる取り組みが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を実施するにあたっては、管理者が原案を作成し職員の意見を求め、話し合いをしながら作成した。評価の意義については管理者は理解しているが、他の職員間での認識の共有が十分ではない。		自己評価や外部評価の実施にあたり、評価をサービスの改善に活用できるよう、その意義を全職員が共通理解する取り組みが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日程調整等の問題があり、2ヶ月に1回の開催には至っていない。構成メンバーは民生委員、市の担当者、地域包括支援センター、区長となっているが、地域包括支援センターの参加実績は現在までない。ホームの運営状況の報告や、検討事項についての協議をしており、意見や助言を運営に活かしサービス向上に結び付けようとしている。		運営推進会議をサービスの質の向上により活かしていくために、利用者・家族等の参加を検討するとともに、メンバーである地域包括支援センターにもいつも参加してもらえるよう働きかけ、定期的開催していくことが期待される。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者には、運営に関する懸案事項や個別の困難ケースに関して日頃から相談に応じてもらっている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待関連のマニュアルが整備されており、職員間で意見交換をしながら対応方法等について理解を深め、虐待防止に努めている。		今後さらに虐待防止に関して理解を深めるため、虐待関連法に関する研修会等への参加や、そこで学んだことを生かしたホーム内での勉強会等の実施が期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の健康状態や生活状況は、必要に応じ面会時や電話等でこまめに連絡を取るよう心がけ、個々の状況にあわせて報告している。職員の異動については面会時等を利用して報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時には苦情解決の仕組みもしっかりと説明している。管理者は、日頃から利用者や家族の声を聞く姿勢を持つことの大切さを理解しており、家族等の意見を聞く場合は状況に合わせて場所を設定したり、周囲への配慮をするなど、より気軽に意見等を表せるようにしている。		苦情解決の仕組みもしっかりと整えてあるが、加えて意見箱を設置するなど、匿名で意見や苦情を吸い上げる工夫もしてはどうか。また、このような仕組みとともに、日頃から利用者や家族の声を聞く姿勢を大切にすることを職員間で話し合うことが望まれる。
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回リーダー会議やチーム会議を開催するほか、必要に応じて個別面接を実施して、管理者は職員の意見や要望・提案を聴いている。管理者は職員とのコミュニケーションの大切さを認識し、日頃から積極的なコミュニケーションに努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や職員の馴染みの関係の大切さを認識しており、異動は最小限にしている。離職等があった場合は、利用者・家族への説明や新任者にたいして利用者の状況を細部にわたって引き継ぐなど、利用者のダメージが軽減するよう配慮している。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しも適宜行われている	会社全体でのマニュアル集が整備され、スタッフルームにも置いてあり職員が必要な時に確認することができる。マニュアルの検討・見直しについては会社全体で組織化されており、変更になった場合は随時差し替えられる仕組みとなっている。マニュアル自体もグループホームに即したものとなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成を主眼に置いた研修計画がある。外部研修や会社内の各種研修に参加する機会も設けている。研修に参加した後は、受講者により事業所内での伝達講習がなされており他の職員にも研修内容が周知される仕組みとなっている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の他グループホームとの交流を実施している。佐渡島内には他にもグループホームはあるが、事業所としての交流はなされていない。		佐渡島内にはグループホームは2か所のみである。今後、利用者支援や家族支援の在り方、運営推進会議の在り方、職員間の交流も含めてサービスの質の維持と向上を目的にした交流がなされることが期待される。
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者も含めた職員間でのコミュニケーションが良くとられており、職員が気軽に管理者に相談しやすく働きやすい環境づくりに取り組んでいる。管理者は、職員の意見等について必要に応じて上司に相談し、解決を図る努力をしている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	個々の利用者に応じて、急にグループホームに入居するのではなく、体験利用などを通じて利用者が徐々に事業所に馴染めるよう工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者・職員共に、利用者との会話や日々の生活の中から人生の大先輩として教わることが多いと考えている。利用者から地域の歴史や料理を教わったり、職員も話を聞いてもらったり一緒に歌を歌ったりしながら、喜怒哀楽を共にする関係づくりに努めている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族には利用者と一緒に外出をしてもらうなど、できるだけホームに足を運ぶ機会を持ってもらうように働きかけをしている。また、利用者の支援方法等についても家族に相談しながら決定するなど、連絡を密にしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で本人の思いや希望等を把握できるように努めている。思いの把握が困難な利用者については、家族や本人をよく知る人から情報を得るようにし、その人らしさを主眼においた支援のあり方について職員間で話し合いをしている。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメント様式の一部を活用したり、家族からの情報を得たり、日々の関わりの中で聞き取ったりすることで、これまでの暮らしを把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で本人の思いや希望等を把握出来るように努めている。思いの把握が困難な利用者については家族等から情報を得るようにし、利用者や家族の思いを介護計画に取り入れている。アセスメントの際は、ユニットの全職員から意見を集めて課題分析を行うなど、職員が協働で介護計画を作成・実施している		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた評価・見直しを実施し、新たな要望や状況が発生した際にはその都度見直しや修正を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の協力を得ながらお墓参りに行けるよう支援するなど、本人の思いや希望に沿った支援に努めている。併設のデイサービスとの間は自由に行き来出来るようにしており、利用者同士が交流している。		今後も本人・家族の思いや希望等を大切に、必要に応じて家族の協力を得ながら馴染みの店や美容院等への外出希望に対する支援を検討し実施していくことが期待される。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームとしての主治医もいるが、本人及び家族が希望するかかりつけ医から継続して医療を受けることができる。受診への同行は、本人・家族の希望に応じて対応している。主治医は月1回の定期的な往診のほか、必要時の往診にも対応してくれており、連携体制ができています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、ホームとしての指針がある。その都度、本人・家族等と話し合い、本人や家族の意向に添った対応ができるよう努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の個人情報、利用者が出入りしないスタッフルーム内に保管されている。浴室やトイレの使用中は、戸をきちんと閉めることが徹底されている。利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応は見られなかった。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴などの基本的な1日の流れは決まっているが、起床時間等個々の利用者の希望を把握し、習慣を尊重して柔軟に対応している。また、その時々利用者の希望に応じるように努め、一人ひとりの生活のペースを大切にしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭的な雰囲気の中で食事を楽しんでいる。食事の準備や片づけは、利用者一人ひとりの能力や状態に応じて、できる方は職員と一緒にやっている。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者個々の排泄パターンを排泄表で把握し、一人ひとりの排泄パターンや能力に応じた支援がなされている。スムーズな排便を促すため栄養士と連携をとって食材にも配慮し、場合によっては主治医や看護師と連携して対応している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に応じて毎日の入浴が可能である。時間も午後を設定し、ゆったりと入浴できるように配慮がなされている。入浴の実施や時間帯は、体調等利用者の状況や希望に合わせて対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員と一緒に畑で野菜を作ったり、ホームの掃除や食事の準備・後片付けなど、出来る範囲で役割を担えるよう支援している。また、日々の関わりの中で、一人ひとりの利用者がやってみようとしていることを把握して可能な限り対応している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩のほか、各ユニット単位で計画的に外出を実施している。個々の利用者の希望に応じた個別の対応も一部実施しているが、職員体制等の制約もあり、十分に届くことが難しい。		本人・家族の思いや希望等を把握し、必要に応じて家族の協力を得ながら、個々の外出希望に対する支援がさらに実施できるよう検討を期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルが整備され、職員全員が統一した意識を持てるように努めている。利用者の行動を制限しないケアの実践に取り組んでいる。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や、日中玄関に鍵をかけることはなく、自由に入出入りができるようになっている。併設のデイサービス事業所にも自由に行き来することができる。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書やヒヤリハット報告書を活用して防止策を検討し、全職員で共有し事故防止に取り組んでいる。個々の利用者に関する注意事項は、必要に応じて個別ケア計画書に記載され、職員が情報を共有している。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	事故発生時や利用者の急変に対応できるように、マニュアルが職員の目に入りやすい所に掲示してある。日中は看護師が配置されており、急変時には対応が可能である。緊急時には併設のデイサービスの看護師や職員との連携が可能な態勢を取っている。職員も救命救急の研修を受けている。		職員体制が手薄な夜間など、救急救命に限らず初期対応を適切に行なうことができるようにマニュアルを整備するとともに、実践的な研修を定期的に行なうことが期待される。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	防災訓練は実施されておらず、これから実施する予定である。		防災訓練の実施とともに、職員体制が手薄な夜間帯の災害発生時などにおいて利用者の安全を確保するため、地域住民の協力を得られるよう、地区の消防団など地域との協力体制の整備に向けて、運営推進協議会での検討や自治会への協力依頼などの取り組みが期待される。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を立てており、栄養とカロリーバランスに配慮がなされている。食事の時間帯は十分な職員が配置され、介助が必要な利用者には1対1で対応するなど、状態に応じた細かい対応がなされている。利用者一人ひとりの1日の食事量や水分量も概ね把握されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は天井が高く、解放感が感じられる造りである。構造上、リビングに比較して居住スペースの廊下の採光が不足している。食堂とリビングが兼用であり、観葉植物や金魚の水槽を置いたり、壁面には利用者とともに作成した貼り絵を飾るなど、適度な装飾を施している。テレビの音量等についても配慮がなされている。		利用者が家族と話をしたり、気の合う利用者同士など少人数で過ごせるスペースが限られている。リビングの他に利用者や家族が落ち着いて会話を楽しんだりできるスペースを設ける工夫を期待したい。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人が使い慣れたものや馴染みのものを持ち込んでもらえるよう働きかけ、その人らしく暮らせる居室づくりを支援をしている。		今後も家族の協力を得て、利用者本人が使い慣れたものや馴染みのものを持ち込んでもらえるよう働きかけるとともに、職員も利用者と一緒にその人らしい居室をつくる支援を継続的に行なっていくことを期待したい。